

令和 2 年 5 月 28 日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17058

研究課題名(和文)現代ロシアにおける政治体制と選挙：選挙の公正性をめぐるポリティクス

研究課題名(英文)Political Regime and Elections in Contemporary Russia: The Politics of Electoral Integrity

研究代表者

油本 真理 (Aburamoto, Mari)

法政大学・法学部・准教授

研究者番号：10757181

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代ロシアにおける選挙操作とそのリスクについての検討を試みたものである。具体的には、選挙後に抗議運動が盛り上がりを見せた2011-12年選挙サイクル(2011年下院選挙・2012年大統領選挙)について、選挙をめぐる政権と反体制派の攻防、そして与党「統一ロシア」と選挙の正統性との関連に関する考察を行ったのち、同選挙サイクルと2016-18年選挙サイクル(2016年下院選挙・2018年大統領選挙)、また、地方レヴェルの選挙の例として市長選挙の比較検討を行った。本研究からは、ロシアにおける選挙操作の実態と、これが政治争点化するメカニズムが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は以下の三点に求められる。第一に、本研究は、選挙操作の実態およびそのリスクに関する既存の議論の精緻化と発展に寄与するものである。第二に、本研究は、政権・与党陣営による選挙操作の検討に加え、野党側による選挙不正の争点化や市民の抗議運動の影響にも目配りすることにより、選挙権威主義体制が抱えるリスクの動的な把握を可能にする。第三に、本研究は、プーチン政権の強靱性と脆弱性のよりよい理解に資する。

研究成果の概要(英文)：This research project attempts to examine electoral manipulation by the regime and its risks in contemporary Russia. The achievement of this project can be divided into four groups: (1) the struggle between the regime and the opposition over electoral integrity during the 2011-12 electoral cycle, (2) the regime's treatment of its ruling party, United Russia; (3) the comparison of the 2011-12 and 2016-18 electoral cycles, and (4) a comparative study on mayoral elections. This project has revealed the ways in which electoral manipulation in Russia is conducted and how it turns politicized.

研究分野：比較政治

キーワード：ロシア 選挙 権威主義体制 与党

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

選挙は権威主義体制の研究において最も重要な研究テーマの一つである。そもそも、権威主義体制下では政治システム自体が与党にとって有利な性質を持っており、野党の参入障壁が高い。それに加え、権威主義体制下においては投票所での票の水増しや選挙結果の改ざんなどといった選挙不正が行われることが多く、選挙が本来の有権者の選好を反映していないと考えられてきた。その一方で、選挙が行われている以上は現職や与党が敗北したり、選挙の不正疑惑が噴出して体制の正統性が揺らいだりするリスクもある。政権側は望ましい結果を得るための様々な不正の手段を手にはしているが、そういった手段の利用がかえって自らの首を絞める可能性もあるため、それらの手段を常に実行できるとは限らないのである。以上の問題関心から、本研究においては、選挙権威主義体制の代表例とされる現代ロシアを研究対象として、政権側が選挙の実施に際して抱えるジレンマを明らかにすることを目指した。

### 2. 研究の目的

選挙権威主義体制において、政権・与党は時には選挙を操作して勝利を確実にしようとするが、こうした操作は選挙の公正性に対する疑義が生じるリスクと隣り合わせである。政権がどのような力学の中で選挙の操作を試みているのかを明らかにするため、本研究では以下の三つのテーマを設定した。

#### (1) 政権側の選挙戦略

政権側が選挙操作を実施する多様な手段を有していることは既に指摘されている通りであるが、選挙の最終盤で票の改ざんを行うか、それともそれ以前の段階でより目立たない操作を行うか等、その手法やタイミングによってリスク・効果は大きく異なる。本研究においてはまず、政権・与党による戦略の策定がどのような考慮に基づいて行われているのかを、実際の選挙の事例に則して解明する。

#### (2) 野党による選挙不正の争点化

野党は与党が圧倒的に優位に立つ政治体制において構造的に不利な立場に置かれているが、選挙不正の訴えは野党にとって数少ない「切り札」となりうる。この点を念頭に置き、本研究では、野党が政権による選挙不正をどのように争点化し、それがいかなる場合に成功するのかを明らかにする。

#### (3) 選挙不正に対する市民の抗議運動

選挙不正が政治問題化するかどうかは、一般市民がこれに対してどのような態度をとるかにも大きく影響される。本研究では、選挙の実施状況、選挙の公正性に対する不信感の高まり、また野党による争点化の仕方などに注目し、市民による選挙後の抗議運動がどのような場合に活発化するのかについての検討を行う。

### 3. 研究の方法

本研究では、連邦・地方レベルで行われた様々な選挙に注目し、重層的な比較を行うという方法を採用した。まず、選挙後に不正疑惑が噴出した2011年下院選挙・2012年大統領選挙を題材として考察を進めた。そのうえで、これらの選挙の特徴を明らかにするため、研究期間中に実施された下院選挙(2016年9月実施)、大統領選挙(2018年3月実施)との比較を行った。地方レベルの選挙としては、地方選挙の中でも比較的競争が高い選挙として知られる市長選挙に注

目し、マイコブ市、アストラハン市、そしてエカチェリンプルグ市において行われた市長選挙の経過を比較・検討した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 2011-12年選挙サイクルとその後の抗議運動についての検討

本研究では、近年のロシアにおいて選挙の公正性が最もクローズアップされた2011-12年選挙サイクル（2011年下院選挙・2012年大統領選挙）についての考察を行った。この点に関わる成果は二点ある。まず、「プーチン再登板後のロシアにおける『反体制派の時代』 政権の正統性をめぐる攻防」(『ロシア・東欧研究』61号(2016年度号) 2017年)においては、選挙不正を批判する形で巻き起こった抗議運動がポピュリスト的な政権批判の構図に支えられていたという点に注目し、政権と反体制派との間でどのような応酬が繰り広げられたのかを明らかにした。また、「ポスト冷戦時代のリベラル・デモクラシー ソ連解体後のロシアにおける民主化とその帰結」(松戸清裕(責任編集)『冷戦と平和共存(ロシア革命とソ連の世紀 第3巻)』、岩波書店、2017年)では、2011-12年選挙サイクルを、ポスト冷戦期のロシアにおける選挙の競争性と管理のせめぎ合いという視座から捉え直した。

##### (2) 選挙の正統性と与党「統一ロシア」の役割

2011-12年選挙サイクルの理解に際して重要な意味を持つのが、与党「統一ロシア」が選挙の正統性に対する疑義の矢面に立たされる形となったという点である。政権にとって選挙民動員の重要な道具として位置付けられてきた与党が不人気に陥ったことは、政権の選挙運営にとっては大きな打撃となり、この問題をどのように解決するかが重要な課題となった。このテーマに関する研究成果としては“An Indispensable Party of Power? United Russia and Putin's Return to the Presidency, 2011-14”( *Russian Politics*, 4(1), 2019) および“ The Politics of Anti-Corruption Campaigns in Putin's Russia: Power, Opposition, and the All-Russia People's Front ”( *Europe-Asia Studies*, 71(3), 2019) が挙げられる。これらの論文では、2011-12年選挙サイクル後に政権が与党の不人気に対処するために用いた「全ロシア人民戦線」に注目し、これがどのような経緯で登場し、いかなる展開をたどったのかを明らかにした。

##### (3) 2011年下院選挙・2012年大統領選挙と2016年下院選挙・2018年大統領選挙の比較

2011-12年選挙サイクルについての検討に続いて、同選挙サイクルとその次の選挙サイクル（2016年下院選挙・2018年大統領選挙）とを比較する作業に取り組んだ。2011-12年選挙サイクルの際には選挙不正問題が大々的にクローズアップされた一方で、2016-18年選挙サイクルの際には選挙の公正性が争点にはならなかったためである。このテーマに関わる成果としては「プーチン政権と選挙の正統性」(『海外事情』66巻5号、2020年)がある。同論文においてはこの二つの選挙サイクルを、実際の選挙の行われかたや政権側の取り組み、反体制派の戦略などに注目して比較検討を行なった。その結果、2011-12年選挙サイクルの際には反体制派がプレーヤーとして選挙の公正性の争点化に全面的にコミットしたのに対し、2016-18年選挙サイクルの際にはむしろ傍観者としての立場をとったという違いが明らかになった。

##### (4) 地方レベルの選挙の比較研究

連邦レベルの選挙に関する検討から明らかになった知見をさらに深めるため、地方レベルの選挙、特に、比較的競争的であったとされる市長選挙に関する考察を行った。この成果として

は「現代ロシアの選挙における操作と競争 市長選挙（2009-13年）を題材として」（『法学志林』第117巻第2号）が挙げられる。同論文では、政権側の選挙操作という点においてそれぞれに対照的な展開をたどった3市長選挙（アディゲ共和国マイコプ市長選挙（2013年）、アストラハン州アストラハン市長選挙（2009年）、スヴェルドロフスク州エカチェリブルグ市長選挙（2013年））を比較し、政権側の選挙戦略と野党側の出方や市民の反応との相互関係についての検討を行った。その結果、選挙の実施に際してどのタイミングで操作を行うかによって、取りうる選択肢およびそれに伴うリスクが大きく異なることが示された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 油本真理	4. 巻 45
2. 論文標題 プーチン再登板後のロシアにおける「反体制派の時代」 政権の正統性をめぐる攻防	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ロシア・東欧研究	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.5823/jarees.2016.47">https://doi.org/10.5823/jarees.2016.47</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 油本真理	4. 巻 66(5)
2. 論文標題 プーチン政権と選挙の正統性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 44-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Mari Aburamoto	4. 巻 71(3)
2. 論文標題 The Politics of Anti-Corruption Campaigns in Putin's Russia: Power, Opposition, and the All-Russia People's Front	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Europe-Asia Studies	6. 最初と最後の頁 408-425
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09668136.2019.1577359	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Mari Aburamoto	4. 巻 4(1)
2. 論文標題 An Indispensable Party of Power? United Russia and Putin's Return to the Presidency, 2011-14	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Russian Politics	6. 最初と最後の頁 22-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/2451-8921-00401002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 油本真理	4. 巻 117(2)
2. 論文標題 現代ロシアの選挙における操作と競争 市長選挙(2009 - 13年)を題材として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法学志林	6. 最初と最後の頁 9-33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 油本 真理
2. 発表標題 プーチン再登板後のロシアにおける政権と野党 政権の正統性をめぐる攻防
3. 学会等名 ロシア・東欧学会 JSSEES 2016年合同研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Mari Aburamoto
2. 発表標題 The Politics of Anti-Corruption Campaigns in Putin's Russia: Power, Opposition, and the All-Russia People's Front
3. 学会等名 Slavic-Eurasian Research Center 2016 Winter International Symposium "25 Years After: Post-Communism's Vibrant Diversity"
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Mari Aburamoto
2. 発表標題 No Longer Putin's Party? Handling the Unpopularity of United Russia during Putin's Third Term
3. 学会等名 BASEES Annual Conference 2017(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mari Aburamoto
2. 発表標題 Can an Unpopular Dominant Party Mobilize the Electorate? The Kremlin's Strategies Toward United Russia in the 2010s
3. 学会等名 The 9th East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies (ICCEES East Asian Conference) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 松戸清裕 (編集)、野部公一、徳永昌弘、浅川あや子、河本和子、大串敦、油本真理、藤沢潤、佐々木卓也、湯浅剛	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 302 (197-220)
3. 書名 冷戦と平和共存 ロシア革命とソ連の世紀 3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----